

「備えよう 始めよう 防災教育」 ～さまざまな災害から命を守る～

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、未曾有の被害と共に、私たちに大きな衝撃と悲しみを残しました。

子どもたちがさまざまな災害から命を守るための力を育み、未来へ生かしていけるよう、防災教育を推進しています。

自らの命を守る学習

東日本大震災を教訓にして、小学校版「地震・津波の教科書」、中学校版「防災対策総合ガイド」を昨年9月に発行。市内小中学校に配布しました。

昨年12月には、この教科書を監修した大学教授と、地元紙芝居劇団を飯岡小に招き、防災教室を行いました。児童たちは、地震や津波に関するクイズや紙芝居を通して、危険性や対応策などを学びました。

今後も、旭市の子どもたちが大災害への備えに向け、進んで行動できる「減災社会」の担い手となるよう取り組んでいきます。



命を守る学習本 小学校版「地震・津波の教科書」

さまざまな防災教育を実施

学校では地域の実態に応じたさまざまな訓練を通し、学校防災体制の見直しを毎年行っています。

また通常の避難訓練のほか、授業中、休み時間や清掃時間などにも非常事態を想定した訓練を行い、防災意識を高めています。

今後も、地域と学校が一体となって防災体制を充実していけるよう努めていきます。

〈避難訓練などの様子〉



①大学教授による防災教室(飯岡小) ②津波警報による高台への避難訓練(海上中) ③校舎からグラウンドへの避難訓練(中和小) ④保護者と一緒に高台への避難訓練(三川小) ⑤保護者への引き渡し訓練(中央小)

教 育 委 員 コ ラ ム



ものの使い方の善しあし

教育委員会教育長
 埴田 哲雄

市内小中学校の校長会議で、県環境生活部県民生活課から講師を招き「ネット社会と青少年」という演題で講演会を行いました。携帯電話やスマートフォンなど、インターネットの普及による、子どもたちへの情報モラル教育の重要性とネット社会の危険性について、再認識されました。

昔は、鉛筆を削らせるために、小刀の正しい使い方を教えたものです。間違った使い方をしていたら、厳しく

叱っていました。ものにはそれぞれ正しい使い方があります。誤って人を傷つけてしまうような危険性があるもの場合には、親などの大人が責任を持って教え、与えてきました。

ものの使い方の善しあしは、子どもたちの周りにいる大人が教えていかなければなりません。何事も経験が必要といいますが、取り返しのつかない失敗は、多くの人を犠牲にしてしまいます。

いまや誰もが使えるインターネット。携帯電話はもちろんのこと、ゲーム機からもインターネットにつながる時代です。ネット社会における危険性をどれだけの大人が理解した上で、子どもたちに与えているのでしょうか。ややもすると、インターネットに関する知識は、子どもたちの方が先行しているのかもしれません。

与えた者の責任として、家庭内でしっかりとルールを決めて、正しく使える力を身に付けさせることが、大人としての大切な役割ではないでしょうか。